

1 開会

2 土屋市長あいさつ

今年度 第1回目の総合教育会議に御参加いただき、感謝申し上げます。

峯村教育長はじめ、教育委員の皆様方には、平素から子どもたちの教育の充実、発展のために、大変な御尽力をいただいておりますこと、心より感謝申し上げます。

この上田市総合教育会議につきましては、教育委員会と市長部局が「教育の課題」や「あるべき姿」を共有して教育施策を推進するという、平成27年度の法改正を受け設置されてから5年が経過するところです。

この会議ではこれまで、教育大綱の進捗状況の確認など、様々な面での教育課題について意見交換を行ってまいりました。

本日は、まず初めに、さまざまな方面で影響が広がっております「新型コロナウイルス感染症」に関する対応につきまして、市では、私が本部長となって対策本部を立ち上げており、市としての対応とともに、国の要請を受けての学校現場などでの対応等について情報共有をさせていただきます。

市としましても、一日も早い収束に向かうことを願い、迅速かつ適切な対応に努めてまいりたいと考えておりますので、皆様の引き続きの御協力をお願い申し上げます。

このような状況にある中で、本日と明日にかけて小中学校において、縮小して卒業式が行われるということで、大変な御苦勞があったことと思いますが、御尽力に対しまして感謝を申し上げます。

また、教育施策に関わる課題として、今年度から上田市では新たに「信州上田学」をスタートしており、教育委員会でも取り組んでいる「地域を学び、地域に愛着を深める教育」について、相互に情報共有を図りながら、今後の効果的な進め方など、意見交換を行いたいと思っております。

この「信州上田学」につきましては、「地域の学び」を通じて、地域への誇りと愛着が育まれることで、シビックプライドの醸成が図られることを目指し、事業を展開しております。この取組が定住人口や関係人口の増加につながり、SDGsという持続可能な開発計画とも連携する形で、持続可能なまちづくりに寄与することを期待するところです。

今後、小中学校の学びにも大いに生かされるよう、教育委員会との連携を更に深めながら、より効果的な事業展開を図ってまいりたいと考えており、その実現に向けた御意見、御提言などもいただければ ありがたく思う次第であります。

本日の会議において率直な御意見を交わすなかで、私の思いと委員の皆さまの思いを一つとして、更なる連携を進めていくことで、「地域の宝である子どもたちがすくすく育つまちづくり」につながり、また、「生涯を通じて学べる環境づくり」の進展が図られることを期待しているところであります。

以上 簡単ではございますが、私からのあいさつとさせていただきます。本日はよろしく願います。

3 峯村教育長あいさつ

上田市総合教育会議の開催にあたり、教育委員会を代表いたしまして、一言あいさつを申し上げます。

日頃から、土屋市長には、上田市の教育行政発展のため、多大なる御支援、御協力をいただいております。心から感謝申し上げます。

本日の総合教育会議は、新しい教育委員会制度における大きな柱の一つであり、市長と教育委員会とが、さまざまな教育課題について共通認識を持つための大切な機会であると捉えております。

さて、近年、全国的な教育課題として、いじめ、不登校、虐待、子どもの貧困などが指摘されております。また、グローバル化や情報化が進展する一方、我が国は過去に経験したことのない人口減少社会に転じております。

このことが社会環境や生活の変化にもたらす影響は予測しがたいものがあり、これからの子どもたちは、ますます変化の激しい時代を生き抜いていかなければならないと感じているところでございます。

このような中で、様々な教育課題に着実に対応していくため、市長と教育委員会が、意見交換を密にし、問題を共有しながら連携を深めていくことは、大変有意義なことであると考えております。

私は、教育長の職に就かせていただき、多くの学校を訪問したり、また、公民館をはじめ様々な教育施設における行事や大会等にも出席させていただいておりますが、そこでたくさんの子どもたちや市民の皆さまが元気よく、伸び伸びと活動している姿を見てまいりました。

この子たちや市民の皆さまが、安全で安心して生活できるようにすることが、全ての土台にならなければならないのであらうと思っております。

上田市の教育大綱の基本理念であります「燦(さん)と輝く上田の未来を紡ぐ人づくり」に込められた、「ふるさと」をいつまでも愛し、誇りに思いながら、人と人の絆を大切に、夢と希望を持って未来への活力を生み出していく人づくりをしていくことこそが、市と教育委員会に課せられた重要な役割であると考えております。

本日は、うえだを学び、知り、楽しむ「信州上田学」や、郷土に誇りや愛着を持つため、市内の各学校で実施しております「ふるさと学習」、「ふるさと上田先人顕彰事業」など、「地域を学び、地域に愛着を深める教育」について、有意義な意見交換ができればと思っております。

結びに、この総合教育会議が、市と教育委員会が一体となって教育行政を推進するための意義ある会議となりますことを願ひまして、私からのあいさつとさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願ひいたします

4 会議事項

(1) 新型コロナウイルス感染症に係る対応等について

●柳原政策企画部長

資料1により説明

- ・市主催のイベント・行事の開催についての当面の判断基準(対策本部から公表)

● 峯村教育長

学校現場や教育委員会の対応等について報告・説明

● 柳原政策企画部長

ここまでで御質問や御意見等はございますか。

● 綿谷教育委員

上田市でコロナウイルス感染が発生した場合の対応と、若い親御さん達を中心に重症化させないため、上田市として、一人ひとりに危機感を持たせるような注意喚起が必要だと思いが、どのように徹底していく考えか。また、小中学校の卒業式も縮小した形で行われたが、自分たちで考える力も付けられる機会となり、一つの大きな勉強にもなった面もあるように思うが、上田市としてリーダーシップのもと、より強い対策を進めていって欲しいと考えるが、その辺りの考えをお聞きしたい。

● 柳原政策企画部長

上田市では平成26年に、新型インフルエンザの対策についての計画を立てており、その計画に沿って、場面に応じた対策を検討している。具体的には情報提供や蔓延防止対策、いざ発生した時の予防接種や医療体制、市民生活の安定の確保などの項目に分類して対応している状況である。

委員から御指摘ありました情報提供や啓発の部分については、県や保健所とも連携して進めていく内容となるが、市の担当部署への情報掲示、市のホームページや有線などによる啓発、うがいと手洗いの励行やマスク着用の呼びかけなどを行っている。マスコミでも折に触れて放送されているので、市民の皆さんの関心も高まっていると感じているが、引き続き予防対策などの周知を進めて行く。

また、上田市で感染が発生した場合には、公共施設の閉鎖や医療体制をどうするのか、そのような情報を併せて市民の皆さまに様々な媒体を通じてお知らせしたいと考えている。特に、若い親御さんが抱く不安も大きいものと思うので、教育委員会・こども未来部からの情報提供や、政策企画部としては広報担当となることから、啓発に努めてまいりたいと考えている。

● 土屋市長

国からの要請も受けている中で、上田市としても感染を広げないため、一人ひとりが日常生活において予防対策を励行してもらうよう、市長のメッセージに込めさせていただいた。

こういう時にこそ、それぞれが励まし合うことで心の免疫力も高めていくことも必要であり、現状として、この地域からは感染者が出ていないとお聞きしているが、引き続き、規則正しい生活をする事で感染症を防げるということを信じて対応してもらいたいと考えている。

企業での対応、医療機関や福祉関係の皆さんにも尽力いただいております、市としてもこの地域から感染症を出さないという思いで対応していきたいと考えている。

● 横関教育委員

学校の休校に関しては、新型コロナウイルス感染症対策本部が中心になって、今後の対応を考えていただく事が大切だと考えている。市民活動の自粛に伴い、経済状況や市民生活など、色々な面で影響が出てくるため、安全で安心した生活を送ることが大切なので、市がバランス感覚をもって考えていただくべきと考えている。国や県が決めることのほか、今回の案件は

自治体の力が試されるものであり、上田市が安全に暮らせるということを知らせるため、広報していただくことも大切だと考える。

危機管理という面がすごく大切なことで、いつ感染症が入って来ても大丈夫なように、医療体制を今のうちに考えておく必要がある。各部署で連携して対応していただきたい。

子ども達もコロナウイルスの影響で、ストレスを抱えて生活している状況であることから、教育委員会も一丸となって、子ども達のメンタルケアにも取り組んでいただきたいと考えている。

今回のウイルスの対応については、「思いやり」が試されているものと考えている。人と人との「思いやり」によって、感染症が抑えられるのではないかと思っている。このような情報を高齢者の皆さんも含め、SNS以外の方法でも発信できるよう検討してもらいたい。

今後も、対策本部での検討について、いち早く動いていただきたい。

●北沢教育委員

上田市として、咳エチケットや手洗いなどの広報だけでなく、実際に感染者が出たときの対応なども見越して検討すべきと考えるが、図書館や公民館などの施設対応について、本部長としての現時点での考えをお聞きしたい。

また、学校の卒業式について、とても簡素ではあったが、今できる範囲での万全の体制で、素晴らしいものであったと思う。一方で、休校を再開する判断については、国や県の判断もあるとは思いますが、どこかの市町村と同じように、独自で判断していくのか、どういった判断基準をもって登校とするか、もしお考えがあればご意見をお聞きしたい。

●竜野生涯学習・文化財課長

ご質問をいただきました施設の貸出しにつきましては、団体の主体性に委ねており、館内の告知により自粛を呼び掛けている。実際に、予約あった分は50%程度がキャンセルとなっている。公民館、図書館、博物館など、同様の取組を実施している。

●北沢教育委員

自粛を要請しているということは、具体的に言うとお断りしているという捉えで良いか。

●竜野生涯学習・文化財課長

強力にお断りとまではしておらず、できるだけ自粛の協力を促している。

●北沢教育委員

これまで予約あった件は自粛要請として、今後、公民館や図書館などで会議を行う予約があった場合には、どのように対応していくのか、具体的に教えていただきたい。

●竜野生涯学習・文化財課長

利用の申請あった場合には、今後も強く協力をお願いする予定として、上田市の対応方針を説明することになる。まずは3月末までの期間、協力をお願いしていきたいと考えている。

●北沢教育委員

状況に応じた統一マニュアルのような基準を作って、市民の皆さんに納得いただける対応をすべきだと考えている。

● 峯村教育長

非常に悩ましい問題で、上田市民、生徒や保護者など、一人でも罹患者が出れば卒業式は中止する方針で進めてきた。新学期についても、子ども達の安全を守ることを第一に、慎重に考えていきたい。3月24日に臨時の校長会を開き、今後の対策を考えていく予定としている。

長野県内の感染者は、県外から持ち込まれた訳ではなく、県民が外へ出かけていって持って来てしまったケースなので、国が言うように不要不急の外出は避けることが、とても大事だと考えている。学校の子どもに責任はなく、被害者となってしまうことについて、市民の方にどうやってご理解をいただけるか、思い悩むところがある。不要不急な外出はしないと、市民の皆さんの意識をどうやって変えていくか、上田市から感染者を出さないよう、今後、対策本部会議で慎重に考え、進めていきたいと思っている。

● 北沢教育委員

今回、臨時休校にした判断は良かったと思っている。ただし、その決定に至るまでに工夫できる点もあったように思う。対策本部の設置までが遅かったこともあるが、私は本部長の市長が臨時休校の判断をすべきであったと考えている。今後、入学式の判断についても、校長会長等の考えも参考にして、最終的には上田市立の学校なので、対策本部長としてトップの判断が大事になってくると思う。

入学式を含め、どういう状況になれば「上田市の学校は再開できるか」の判断については、慎重に考えていただければと思う。

● 土屋市長

入学式をどうするか判断については、対策本部として決定する中で、当然、教育委員会と校長会の意見を抜きにして、我々が一方的に決める訳には行かないので、判断の材料として、校長会の先生方の御助言をいただきながら進めて行きたいと思っている。思いとして、入学式は開催し、学校の再開も進めて行きたいが、一人でも感染者が出れば中止という判断も考えなければならない状況にある。

施設対応などの個々のケースについても、今後の状況に合わせて判断していくこととなる。

● 平田教育委員

全てにおいて「初動が大事である」と思っている。2月中旬過ぎには日本でも多くの感染者が報告されている。対策本部の設置に時間が要していなかったか、今後のために検証することも必要ではないか。また、学校を休校と判断した際、子どもと保護者に不安を与えないような配慮がされていたか。事前に子どもの居場所などの対応が考えられていたか、危機管理が大事である。事態を予測する事は難しいと思うが、ある程度の対策を決めておくことが重要だと考える。

感染者が一人出たら入学式を中止にするという考えだけでなく、その後、長期化したら子ども達の学習はどうするのか、また、公民館が利用できないことや、経済状況が悪化して疲弊していることなどを踏まえ、上田市として市民のための対策を考えていただきたい。

● 柳原政策企画部長

ありがとうございました。引き続き、庁内で連携して対応していきたいと思えます。

それでは、新型コロナの関係については、よろしいでしょうか。

引き続き、次の議題として資料 2～5ですが、まずは「信州上田学」につきまして、市長部局からの説明をさせていただきたいと思えます。

(2)「地域を学び、地域に愛着を深める教育」について

ア 信州上田学の概要

●鎌原政策企画課長

資料2により説明

・「信州上田学」事業について

●柳原政策企画部長

ただ今の説明につきまして、御質問や御意見がありましたら、よろしくお願ひいたします。

●北沢教育委員

資料2「信州上田学」と、資料3「ふるさと学習」、各小・中学校で行われている「信州型コミュニティスクール」の3つの関係を、どのように捉えているか、考えをお聞かせください。

●鎌原政策企画課長

現在は、学校側に対して「信州上田学」で新たな事をお願いすることは無く、学校で計画される「ふるさと学習」の学びの中に、上田学として連携できるものが無いのか、あるいは、我々のほうで紹介できる講師を派遣して、学校でやろうとされている授業内容が深められるよう行っているものである。あくまで、学校主体の計画の中に、我々が関わらせていただく形で進められたらと考えている。

●北沢教育委員

信州上田学として行っていることの全てが出前講座であり、子ども達は聞いているだけのように見て取れるが、講師を派遣して聞かせることが「信州上田学」事業という考え方なのか、確認したい。

●鎌原政策企画課長

これが最終形ということではなく、どういう形で関わっていかれるか探りながら進めている部分もあるが、少人数を対象としたり、講師との関わりを持った進め方もあると考えている。学校の計画があり、限られた時間の中で、より良い形を目指していきたいと考えている。

●北沢教育委員

長野大学や上田未来会議はワークショップのような取組であり、それをそのままの形で小中学校へ持って行って実践すれば良いとは申し上げないが、講師を呼んで話を聞かせれば、上田のことを理解して、上田に帰って来たいと思う人づくりに結び付くとは思わない。本当に子ども達が、実感を伴って地域を創り、上田に戻ってきたいと思ってもらえるように、神科小学校や第五中学校、上野が丘公民館の「ふるさと学習」の取組、実践を大事に考えていただきたいと思う。

●土屋市長

信州上田学は今年が初めてというところで、模索しているところもあるが、どこに気づきがあ

るか分からないので、上田市全体を対象に講演会を行うことも大切だと考えている。例えば蛇口をひねって出てきた水が、どこから来てどこへ流れていくか知ることなど、教育はどこにでもあるものと考えている。ふるさと学習も当然ながら重要であり、それに合わせて信州上田学を提唱させていただいているが、上田の素晴らしさを知ってもらうため、大事な視点だと考えている。まだ1年目でもあり、温かく見守ってもらえればと思う。

●北沢教育委員

地域学習という面で、例えば結城市には結城紬があり、小学校では蚕を育て、卒業の頃には蚕の絹で作品を作るという体系が出来ている。上田市として独自の形ができればと思っているが、ただ聞くだけのものでは、子ども達が苦しい部分もあるように思うので、色々な工夫を検討していただきたい。

●綿谷教育委員

人口減少が進んでいる中で、この地域の教育も少人数になってきていることから、定着・定住を考えていかなければならない。子ども達に、この地域に残ってもらうためには、もっと磨きをかけていかなければいけない。少子高齢化、労働人口が減っていく中で、人集めが厳しい状況となってきた。我々企業も、魅力がなければ誰も来てくれないため、信州上田学についても早く体系を作り、子ども達に残ってもらえるような上田市づくりを進めてもらえることが私の願いである。「上田の良い所」はいっぱいあるので、一丸となって、より良い魅力ある上田市を創ってもらい、地域の資源を良いものにしてもらいたい。

昨年、菅平小学校でトウモロコシを栽培する取組に参加したが、我々が子ども達から学べる場となり、今年もトウモロコシの販売などの協力をさせてもらいたいとお願いしているところもある。子ども達自身で物を作り、そういう大切さを勉強するという取組に、一緒に参加させてもらっている。そのような取組を広めていってもらいたい。信州上田学も体系ができれば、一つの大きな仕事になってくると思うが、上田市の未来のためを考え、ぜひ、積極的に力強く進めていただきたいと考えている。子ども達のために、上田市を輝く地域にさせていただきたい。

●北沢教育委員

信州上田学のあるべき形を考えていく中では、「人と人との関わり」というものを大事に考えていただきたいというのが希望です。

●綿谷教育委員

上田の産業展の場を利用して、小中学校で学んだことを発表できる場を作っていただければ、色んな人が見に行くことができ、色んな活動を見たり聞いたりできる。今は産業が中心となっているが、教育関係でも、子ども達が発表できる機会を作ってもらいたいと思う。

●柳原政策企画部長

学習指導要領が変わって、県も主体的な学びということを強く言われていて、コミュニティという点で、人と人とのつながりが持てるような上田学のやり方が大切だと思っている。サントミュージーゼではアウトリーチとして一流の芸術家が学校に入っていくなど、主体的な学びをやっていたり、今後、演劇を使って主体的な学びを進めて行く話も出ている。そのようなことも参考にして、上田学もワークショップ形式で生徒に発言を求めたり、お互いに考えてもらったり、小グループで討論し合ったりすることも大切であると感じた。

●横関教育委員

信州上田学のシンポジウムの中で「大人が住みたい理由を言えないまちは若者が逃げていく」という話があったと思うが、市長にとって「住みたい理由」は、どのようなことがあるか、お聞きしたい。

●土屋市長

一つには「生まれ育ったまち」ということ、もう一つは気候も素晴らしいところであり、気持ちも落ち着くという雰囲気もある。昔から知っている「人」が多くいて、人と人との触れ合い、コミュニティがあるということも素晴らしい環境であると思っている。

●横関教育委員

ふるさとに帰って来たいと思うのは、やはり「人と人とのつながり」が大事だと思う。まちを創るのは「人」であり、信州上田学の実績事例にあるように、南小学校の子ども達が過去の地域の様子を学んだことの中にあつた「人の良さ」が大切だと考えている。自分の子ども達も、お祭りなどイベントの時には地元に戻って来たいという思い、シビックプライドが醸成されているものと感じていて、地域の方々に支えられて育ってきた環境が影響しているものと考えている。大人が積極的に関わることで子ども達の心の支えとなり、上田に愛着を感じることにつながるのだと思う。「人」を中心に考えていただけたらと思っている。

現在、子ども達がなりたい職業の1位は「ユーチューバー」であり、ICT環境や仕事の内容も変わってきている中で、上田市では起業したい方、企業誘致などの取組も多くあり、災害も比較的安心であることなど、安全で安心な市政があつてこそ、そこに住みたいと思ってもらえると考ええる。例えば上田市内で起業している人と関わる機会を持ち、主体的に学ぶことなどを通して、都会に行かなくても住んでいかれる、仕事になるということを考えられるよう、市として子ども達に提示できるようなまちであつて欲しいと考えている。

●平田教育委員

資料にまとめていただくと、あらためて上田には様々な「学び」があることが認識できる。ライフステージごとの学びが連携することで、さらに上田市らしさ、上田市の魅力を一貫して学ぶことが出来るのではないかと。

信州上田学として様々な取組がされ、小・中学校においては、著名な方のお話を直接聞けることや社会見学に関連しての事前学習など、このような形での学びも引き続き大切にしてもらいたいと思うが、一番の願いは、子どもたちにとって受け身ではなく、選択権を持って学べる信州上田学であつて欲しいと思っている。これからの取組に期待している。

これまでの「ふるさと学習」の取組は成果があるものと感じており、多くの方が「上田に戻って来たい」と思ってくれているが、残念ながら「雇用」環境が充分とは言えず、雇用の維持・創出は重要な課題であると考えている。

●柳原政策企画部長

ありがとうございました。委員の皆さまの御意見を参考として進めさせていただきたいと思えます。

時間も無くなってきましたので、続きまして資料5の「ふるさと上田先人顕彰事業」について、担当から説明させていただきます。

イ ふるさと学習の概要 (時間の関係で割愛)

ウ ふるさと上田先人顕彰事業(先人館)の概要

●生涯学習・文化財課長

資料5により説明

●柳原政策企画部長

これにつきまして、御質問や御意見がありましたら、よろしくお願ひいたします。

●北沢教育委員

私は素晴らしい取組だと思います。住みたいまちとしての文化の象徴でもあり、ぜひ進めていただければと思う。

●土屋市長

先人館については、東京上田会の皆さまも以前から期待しており、まずは教育会館の場所を借りて事業をスタートすることとしたところである。青森県の盛岡市に同様の立派な施設もあるが、建物については追々、検討していきたいと考えている。

●柳原政策企画部長

ほかに、この件についてよろしいでしょうか。

●池田教育参事

「ふるさと学習」の取組について、資料等の説明の時間ありませんでしたが、自分でテーマを選んで自ら体験して調べ、学んでいく姿が沢山あり、地域との関わりもある。また、自分の生き方に先人の生き方を取り入れて学んでいくキャリア教育もある。この一つひとつが重みのある取組で、各学校で実践されている。

これらの取組は「ふるさと」への思い、上田学に通じるものが沢山あるので、一つひとつ大事に見ていただきたいと思っている。

●柳原政策企画部長

ありがとうございました。

信州上田学につきましては、学校のスケジュール等も確認して連携しながら、より良い形にしていきたいと考えています。引き続き、研究しながら進めてまいりたいと思います。

それでは、次回開催でございますけれども、次年度ということになります。次第にありますが「上田市教育大綱」と「第2期上田市教育支援プラン」の改訂に向けた協議を予定したいと思っています。開催時期は5月頃として、詳細につきましては後程、御連絡させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、長時間にわたりまして御協議、また、参考になる御意見を戴きまして、本当にありがとうございました。来年度は「教育大綱」、「教育支援プラン」という大きな課題となりますが、さまざま御協議をさせていただき、より良いものを作りたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

本日の会議事項はこれにて閉会させていただきます。どうもありがとうございました。